

実践報告

札幌市立信濃小学校

(1) 研究内容

研究課題：「男女平等教育に関する研究」

- 男女平等教育に視点を当てた授業実践

(2) 実践の内容

- 男女平等教育に視点を当てた授業実践

1 学年道徳 主題名「男の子 女の子 どんな色」

○学習のねらい

男女のイメージに捉われず、一人一人に自分らしさがあることを理解し、互いを認め合う姿を育てる。

○学習内容

ランドセルや服の色ぬりをする活動をきっかけに、男女のイメージを出し合った。自分の好きな色や実際に着ている服の色を見たり、話したりすることによって、好きな色は人それぞれであることや、自分らしさ、その子らしさがあることに気が付いた。

2 学年道徳 主題名「男の子 女の子」

○学習のねらい

男女のイメージに捉われず、一人一人に好きなことや得意なこと、やりたいことがあることを理解し、互いを認め合う姿を育てる。

○学習内容

遊び、家庭の仕事、職業について、「男の子(人)、女の子(人)、どちらがすることかを考えよう」という活動をした。『みんながしている』『決まりはない』といった実感を持ち、男女ではなく、一人一人の違いやよさがあることに気が付いた。

3 学年道徳 主題名「わたしのなりたい職業」

○学習のねらい

将来のやってみたい仕事を男女で比べることを通し、男性の仕事と女性の仕事のイメージについて考えることができる。

○学習内容

「なりたい職業」ランキングを活用し、小学生に人気のある職業を男女別に比較した。男の子に人気のある職業は「力を使う」「体を動かす」などの特徴があり、女の子に人気のある職業は「お世話をする」「細かく作業する」などの特徴があることに気付いた。もしも、男の子が女の子に人気のある職業に就いたら、またその反対だったらについて考え、人それぞれにやってみたいことがあり、性別は関係がないことを理解した。

4 学年道徳 主題名「男女の協力を大切に」

○学習のねらい

男女が協力し合う学級づくりのために、自分のめあてを考え、実践しようとする。

○学習内容

男女がそれぞれに思っている異性に対する負のイメージを伝えた。女子は男子に対して「ふざけすぎ」男子は女子に対して「注意ばかりする」などのイメージがあることを確認した。負のイメージを払拭して男女がもっと仲良くなるためには、お互いの話をもっと真剣に聞くこと、よいと思っているところを伝え合うことが大切ということに気付くこと

ができた。

5 学年道徳 主題名「男女のよさを生かして」

○学習のねらい

男子のことを認めていても素直になれない主人公の気持ちを考えることで、男女が協力して取り組む必要性に気づき、男女が互いに協力しようとする心情を育てる。

○学習内容

資料を通して相手のよさや頑張りは分かるけれど、それを素直に表現できないもどかしさを理解し、男女で協力していくことがよりよい生活につながっていくことに気付くことができた。

6 学年社会科 単元名「近代国家への歩み」

○学習のねらい

産業の発達や暮らしの向上を背景に差別の撤廃や普通選挙運動など民主主義を求める運動が盛んになるとともに、女性の地位が向上してきたことを捉える。

○学習内容

昔は、女性の地位は男性よりも低かったことに対し、平塚らいてうたちが女性の地位を求める運動を起こした事実を提示し、男女とも平等に権利を与えられる大切さに気が付くことができた。

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 昨年度に引き続き男女平等教育を研究推進してきたことで、教師が共通の土台に立って男女平等教育について見識を深め合うことができた。特に今年度は全学年での授業実践を行うことができ、子どもの発達の段階に応じた男女平等教育をより推進できた。
- ・ 男女が好む色や職業について考える活動を通し、男女のイメージはあるものの実際には性別に関係なく一人一人が思ったことを自由に選んでよいこと、個性をもった大切な存在であることなどの意識が高まった。授業後に「赤が好き。」と声に出す男の子や「スポーツ選手になりたい。」と声に出す女の子がいた。
- ・ 男女の協力の実践では、低学年の頃と比べて、高学年では男女別々に遊んでいることに気が付いた。授業後はお互いに声を掛け合い休み時間には男女仲よく遊ぶ姿が普段より少し多く見られるようになった。

② 課題

- ・ 人を男女別に見るのではなく、同じ権利をもった個人として捉えることを中心に授業実践することができたが、身体的に男女が違うことにはあまり触れていないことが課題として挙げられる。身体的な特徴と個人の権利としての男女平等を考えられるとよかった。
- ・ 男女平等に関する授業実践は男女の性別としての違いと個々人としての違いを、混同しないように指導者が意識して指導する必要がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 子どもたちは「男女は平等である」ことはなんとなく分かっている。しかし、日常生活の様々な関わりの中で「男女のイメージ」が形成されやすいことも現実にはある。教育という場で、一人一人の個性が失われないように、教師一人一人が言動に十分に配慮して個性を潰さないように指導することが大切であると考える。